

東京都公文書館だより

Tokyo Metropolitan Archives News

第10号

【編集・発行】

東京都公文書館

平成18年度登録第7号

平成19年3月発行

【印刷】

(株)まこと印刷

公文書館の書庫から

1930年代の自動車カタログ



われらの自動車1935年ダットサン

「昭和十年 商工課 共同施設費助成関係書類」冊一ノ一

商業組合と自動車カタログ

「今度はどんなクルマにするか?」と、何種類ものカタログを前に家族で議論された方は多いと思います。でも、その時のカタログが残されているのは希です。

ところが、東京都公文書館には昭和戦前期のなつかしい自動車カタログがたくさん残されています。それらは昭和7年から昭和18年の12年間にわたる「商業組合」の設立認可・廃止・規約変更・補助申請などの公文書を綴じた約50冊の簿冊の中に、編入されていたものです。

それではこの商業組合とは何でしょうか。昭和恐慌下で大資本の圧迫に呻吟する中小商業資本家救済のため、昭和7年9月、商業組合法が公布されました。これに基づいて、行政主導で組織されたのが商業組合です。この法律は中小商業者を業種別に組織化し、共同仕入れや共同販売等を通じて事業の近代化・合理化を進めるとともに、同業者に対する組合の統制力を強めて過当競争を排除するなど、不況を乗り切ることを目指していました。

組合事業の柱とされた、取り扱い商品の仕入、保管、運搬、その他組合員の営業に関する共同施設に対しては国や東京府から助成金が交付されました。その具体的な助成対象として倉庫の建築費、電話敷設費のほか、台秤などの備品購入費がありました。なかでも多かったのが自転車・自動車の購入費でした。この自動車を購入したいという申請にあたって、カタログが添えられることとなります。こうして商業組合関係の公文書の中に、貴重な1930年代の自動車カタログが綴じ込まれることになったのです。

カタログが語る自動車の社会史

残された自動車(三輪自動車を含む)のカタログ類は19社の46種類(のべ約100件)を数えますが、いずれもわが国の自動車史の一断面を語る興味深いものです。

まず購入助成の申請で件数の最も多いのがフォード社のトラックでした。このことは、わが国における自動車産業の特殊な成立史と関係しています。関東大震災直後、多くの車輜が焼失してしまった路面電車の代替として、東京市は予算200万円を計上し「乗合自動車運行計画」を立てました。そしてこの計画にもとづいてアメリカから乗合自動車(市バス用)1000台が緊急輸入されました。これを契機として、フォード、ゼネラル・モーター社の日本上陸が実現します。すなわち、フォード社は、大正14年(1925)、GM社は昭和2年(1927)に、部品を日本に輸出し、日本国内で組み立てを行なうという、いわゆるノック・ダウン生産を展開したのです。日本における自動車生産始動の背景がこのようなものであったため、トラックを中心に豊富な車種を誇るフォー



フォードV・8トラック

「昭和12年 商工課 商業組合 冊ノ八」



マツダ三輪トラック

「昭和十二年 商工課 商業組合 冊ノ八」

ド社の人気は依然として根強かったのでしょうか。

一家に一台、国民大衆車への道

しかし1930年代に入り国際的緊張が高まると、やがて外国車頼みのノックダウン生産体制から脱却し、わが国独自の自動車工業を確立する事が目指されるようになりました。昭和9年には商工省の肝いりで商工省標準形式自動車が完成、翌10年には「自動車工業要綱」、11年には「自動車製造事業法」が制定されて、軍用車輛の国産化が急速に進められました。こうして日本の自動車工業は国産体制へと大きくシフトしていきました。

多くのカタログにみられる「国産」や「商工省標準型」というキャッチフレーズからは、機械化・機動化を目指す軍部の要請を受けて、ノックダウン生産体制からの脱却を図ろうとする自動車産業界と行政の強い意志が感じられます。

『ダットサン トラック ニュース』（第二号 10月）という宣伝パンフレットには、西條八十作詞・小関裕而作曲のCMソングが載せられています。

♪ あなたはわたしに わたしはあなたに
凭よれてダットサン まあ素敵！ ♪

「東京行進曲」「東京音頭」、戦後の「青い山脈」などで知られる作詞家西條と、「大阪タイガースの歌（六甲おろし）」や戦後の「イヨマンテの夜」などで知られる作曲家古関の大物コンビ。昭和18年には代表的な軍歌「若鷲の歌（予科練の歌）」も生み出すことになるコンビですが、このCMソングではなんともハイカラで軽快なイメージが伝わってきます。

また同じパンフレットにある「純国産のダットサン 時代の寵児一家に一台」というキャッチフレーズからは国民大衆車への指向性、夢がよく表されているといえるでしょう。

なつかしの車 幻の車

1950年代後半まで現役であった「くろがね号」などの三輪自動車のカタログも多くあります。バタバタとエンジン音を響かせて走ることから「バタンコ」の愛称で呼ばれていた地方もありました。なつかしく思い出される方もいらっしゃるでしょう。製造発売元は「発動機製造」（→ダイハツ）や「東洋工業」（→マツダ）。わが国の自動車史に占めるオート三輪車の位置の大きさがうかがえます。

一方、今では馴染みの薄い存在となったものも少なくありません。太田自動車製作所の「オオタ号」、京三製作所の「京三号」等という自動車は、よほどの車マニアの方しかご存じないでしょう。しかし、その京三製作所が、新幹線のATCメーカーとして健在であるように、その技術はわが国の様々な産業分野を支える技術として、脈々と受け継がれているのです。

およそ70年前の公文書に綴じ込まれた自動車のカタログ・パンフレット類。作成された当時、東京府の職員たちはこれらの文書が歴史的関心をもって利用されるとは思ってもみなかったことでしょう。しかしそこからは実に豊かな歴史の証言を引き出すことができるのです。

はじめに

近年、自分の住む地域の地名の由来を調べたり、失われた町名を掘り起こすなど、地名への関心が高まっているようです。地名に刻み込まれた地域の歴史を探っていくのはたしかに楽しいことです。

ここでは、東京都公文書館所蔵の史料を利用して地名調べ、とくに町名調べをしていく方法を具体的にお示ししたいと思います。公文書館の所在する港区の町名を事例として、調査をスタートしましょう。

江戸絵図の語る事実

東京で由緒ある地名といえば大方は江戸時代に生まれたものですから、地名調べはまず江戸時代からはじめて、その変遷を追っていけばいいと思いがちです。ところがこの方法では相当数の町名が落ちてしまいます。なぜかということは江戸絵図が語ってくれます。右上に掲げたは幕末の芝地域を描いた切絵図です。

ここで白色で表されているのが武家地、薄い灰色が町地、赤色が寺社地です。これをみると芝地域の相当の面積が武家地で占められていたことが一目瞭然です。都市江戸全体でいえば7割が武家地（江戸城を含む）、残りを町地と寺社地がほぼ等分していたとされていますが、芝地域でも武家地が多かったこととなります。

明治に入るとこの広大な武家地には新政府や軍の機関などが建てられたほか、一般の町が成立していきます。このような町はその段階ではじめて町名が付けられることとなりますから、江戸時代の史料には登場してこないわけです。

またいくつかの町が合併したり、寺社地などを組み込んで新たな町ができるなど、明治2年（1869）年から同5年あたりまでに成立する町が多数ありました。

そこで、地域の町名調べは江戸時代から下ってくるのではなくて、新しい時代の文献から遡っていくという手法の方が漏れが少ないといえるのです。



幕末の切絵図に見る芝地域

まずは地名辞典で概要チェック

いよいよ地名調べをスタートしようという時、まず基本的な事実を押さえるのに地名辞典を利用しましょう。主要な図書館には数種類の地名辞典が都道府県別に並べられています。たとえば『角川日本地名大辞典』13・東京都（角川書店）や『日本歴史地名大系』第13巻・東京都の地名（平凡社）などで調べたい地名をチェックします。一般的にはこれで要点は十分押さえられるでしょう。

試みに前者によって赤羽町について調べてみると次のように記述されています。

あかばねちょう 赤羽町（港区）

〔近代〕明治5年～昭和42年の町名。もとは筑後久留米藩有馬氏の屋敷地。成立当所は芝赤羽根町。町名の由来は、地内を東流する赤羽川（古川の異称）による（案内）とも、川に架かる赤羽橋による（画報）ともいう。明治5年の戸数13・人口85（府史料）。同11年、芝区に所属。同44年芝の冠称をとり、赤羽町となる。昭和22年港区に所属、芝赤羽町となり、同42年現行の三田一丁目の一部となる（以下略）。

要領よく必要事項がまとめられており、現在の町域との対応関係が明示されているのも重要な情報です。通常の調べ物であればここまでで解決となるでしょう。しかし、ここではさらに引用されている文献に直接当たり、より豊かなオリジナルの資料作成を目指していきましょう。

東京都公文書館だより

風俗画報・東京案内・東京府志料

先の記述では出典資料が省略形で記されています。画報は『風俗画報』、案内は『東京案内』、そして府志料が『東京府志料』を指しますが、これらの文献が明治期東京の地名・町名を調べていく基本資料になります。

まず『東京案内』は明治40（1907）年に刊行された上下2冊、総頁数1,591頁の大冊です。東京都公文書館の史料編さん事業は明治35年に開始された東京市史編纂事業を継承するものですが、この市史編纂室が編纂・刊行した最初の本がこの『東京案内』でした。上野公園を会場として勸業博覧会が開かれるのに合わせて、大急ぎで編まれたものですが、明治末年の東京地域誌としてその意義を失ってはいません。西久保明舟町（現・虎ノ門二丁目）についての記述をみておきましょう。

西久保明舟町

元土地なりしを、維新の際、明石町、船松町二丁目、芝車町、芝伊皿子七軒町、三田功運寺門前、三田台町一丁目等の内の代地と為し、其翌明治二年之を合し、明石・船松の町名より各々一字を取りて、今の名に改む。後明治五年又附近の地をへ併合す。町の中央に桜川の流れあり。

ちょうど近年の市町村合併でも合併する市町村の地名を一部ずつ取って新しい自治体名が決められるケースが少なくありませんが、明舟町もそのようにして命名されたことがわかります。

次に『風俗画報』です。明治20年代には欧米のグラフィックやイラストレイティッド・マガジンの影響を受けた「画報」を名乗る雑誌の刊行が相次ぎます。そのはじめての試み、つまりわが国初のグラフ誌が明治22年創刊の『風俗画報』（東陽堂）でした。この雑誌は大正5年（1916）の終刊までに517冊が刊行されていますが、この内臨時増刊として「新撰東京名所図会」全64編が編集され、当時の主要な公園や15区ごとに、名所・旧蹟、町の沿革や主要建造物が豊富な絵とともに紹介されています。

芝口町は今日の新橋一丁目、東新橋一丁目にわたる地域ですが、当時は新橋停車場もあって賑わっていました。『風俗画報』は町の位置や町名の沿革（旧江戸城の芝口御門にちなむ）を概略した上で次のように記しています。

芝口町 ◎景況

当町は一般に新橋と称し、芝区の中にも最も繁昌の地なり。是れ全く日本橋京橋よりの大路に当たり、且つ停車場に添ひ衆庶の来往殊に雑沓なるに因れり。故に旅館飲食店等他より甚だ多し。

そしてさらに、玉木屋（佃煮・煮豆）、橋善（魚料理）、有楽軒（西洋料理）、今朝（鳥料理）といった当時の「東京いい店うまい店」が紹介されています。こうした記述に加えて当時の風俗を如実に示す絵図がふんだんに盛り込まれているのですから、この本を手時に時空を超えた旅に出たくなるような気がします。

なお、『風俗画報』は全編がCD-ROM版で刊行され（2002年、ゆまに書房）、こちらは都立中央図書館等で閲覧できます。



芝三田聖坂ヨリ銀座通リヲ望ムノ図

「風俗画報」第244号 明治35年1月

次の『東京府志料』は『東京案内』や『風俗画報』とは少々性格の異なる地誌です。明治5年（1872）4月、陸軍省は各府県の地誌編纂計画を立て、国内各地からその土地の沿革と現勢を書き上げさせ、日本の国勢を明らかにしようとししました。そして同月24日には調査すべき内容を列挙して示しています。これを受けて東京府はこの指示に沿うように編集計画を立て、明治7年まで足掛け3年間をかけてまとめあげました。これが現在東京都公文書館に所蔵されている『東京府志料』で、120巻、25冊に及びます。明治初年の戸口、物産などを網羅的に調査収録した貴重な史料といえることができます。今、三田同朋町（現・芝5丁目）についての記載を紹介しておきましょう。

三田同朋町 此地ハ昔讃岐高松ノ藩邸ナリシニ、元禄九年上地シ幕府坊主陸尺ノ町屋敷トナリシヨリ、

東京都公文書館だより

此町名ヲ唱フト云

〔土地〕形勢 平坦ニシテ低シ 地積

〔戸口〕戸数 平民七十六戸・寄留六戸 内士族五戸・平民一戸 人口 三百五十八人 内男百八十四人 女百七十四人 ○寄留三十九人 内男二十九人 女十人

〔車馬〕車 荷車二両 小車二両

〔物産〕味噌・製造高三千六百貫目 価金四百五十円 腹掛・百二十枚 価金七十円 股引・百五十具 価金百十二円 足袋・六千双 価金六百五十円

下駄・七千双 価金百円 箆箭・二十個 価金二百円 椅子・三百五十脚 価金二百円

町名の由来については説明が必要かもしれません。ここで坊主と呼ばれているのは僧体をしながらも僧侶ではなく、江戸城で将軍や大名に近侍し雑務や儀礼の手伝いに当たる役の者を指し、彼らが同朋衆とも呼ばれていたことから町名になったのです。また物産に着目すると、今や慶応大学近くのにぎやかなこの土地で、味噌、腹掛け・股引が代表とされているのに驚かされます。

江戸から東京へー町の移り変わり

天下の城下町江戸から近代日本の首都東京へと移り変わる中で、町々の合併や吸収、新たな町域の創出が行われます。とくに明治2年(1869)、同5年に大きな変化が生まれました。そこでこの間の町の変遷を追うことができる簡便な資料が作成され、あるいは版本として出版・販売されました。

一例として明治7年に刊行された『改正東京町鑑』を紹介しましょう。縦7.4cm、横15.8cmという携帯に便利なサイズで作られたこの版本は、新しい行政区分とそのままでの町名を一覧するために出版されたものです。明治4年11月、戸籍法が実施されたのに合わせて武家地・寺社地が廃止され、朱引地内を一括して東京府下の六大区に分け、各大区を16小区に分けました。この結果、ある町がどこの大区・小区に所属するのか、そして武家地や寺社地の跡に生まれた新しい町などの情報を得ることのできる簡便なリストが求められることになったのです。

芝一丁目など29カ町は第二大区二小区に属しましたが、同書はまずこの小区の戸長・年寄を記した上で、各町名を列挙し、必要な情報があれば町名の隣に記入しています。いくつか抜粋して

おきましょう。

同(桜田)本郷町

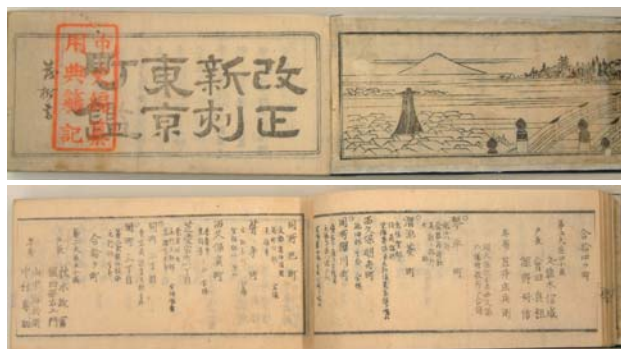
本郷六丁目代地・元大の場跡開墾地合併唱替
烏森町

分部溝口武田邸・烏森社地

汐留町一丁目

工部省鉄道寮御用地

明治2年に本郷六丁目代地を改称して生まれた桜田本郷町は、明治5年、江戸時代に弓の稽古場であった跡地の開墾地を合併して町域を確定しました。また烏森神社に因む烏森町は、分部氏・溝口氏・武田氏の武家屋敷と烏森神社の社地を併せて明治5年に成立しています。また明治5年に日本の鉄道が開業した際、その起点駅として成立した新橋駅(のちの汐留貨物駅)の鉄道用地が汐留一丁目となりました。こうした明治初年の町名と行政区分の変更に対応したのがこの『東京町鑑』でした。



「明治七年 改正東京町鑑」

江戸の町名考証

ここまで、明治期の町名調べに必要な文献・資料を時代を遡る形でたどってきましたが、いよいよ江戸時代の史料の登場となります。江戸期には地名考証がさかんに行われ多くの文献が生まれています。ここでは代表的な二点を紹介します。

まず第一に、幕府による官撰の地誌である『御府内備考』です。

文化7年(1810)に開始された江戸幕府による地誌編纂事業はまず第一に「新編武蔵風土記」から着手されました。しかし武蔵国に江戸を含めた編集計画ではあまりに膨大なものとなり、また在方の村と江戸市中の町では執筆内容も異なってくることから、江戸に関する記述を独立させるよう方針転換がなされました。これを受けて文政9

年（1826）から著述の基礎となる資料集が作られ、同12年に完成しました。これが「御府内備考」で、地誌からなる正編が145巻、寺社に関する沿革からなる続編が147巻という大部な資料集成です。

ちなみにこの資料集をもとにして執筆された「御府内風土記」は、明治6年（1873）に皇城が炎上した際に焼失し、幻の江戸地誌となってしまいました。このため基礎資料集としての「御府内備考」がもっとも信用に足る地誌として利用されているのです。

町に関する記述は、まず町の沿革と町名の由来から始まり、町の広さ、隣接する町や屋敷名、自身番屋や橋などの建造物、由緒ある町人の紹介や市の立つ日など、決められた項目に従ってよく整理されています。沿革・由緒はその町からの書き上げをもとにしつつ、先行する地誌・考証を引用しながら批判的な検討を加えており、信をおける内容になっています。

浜松町の名が権兵衛町だったら・・・

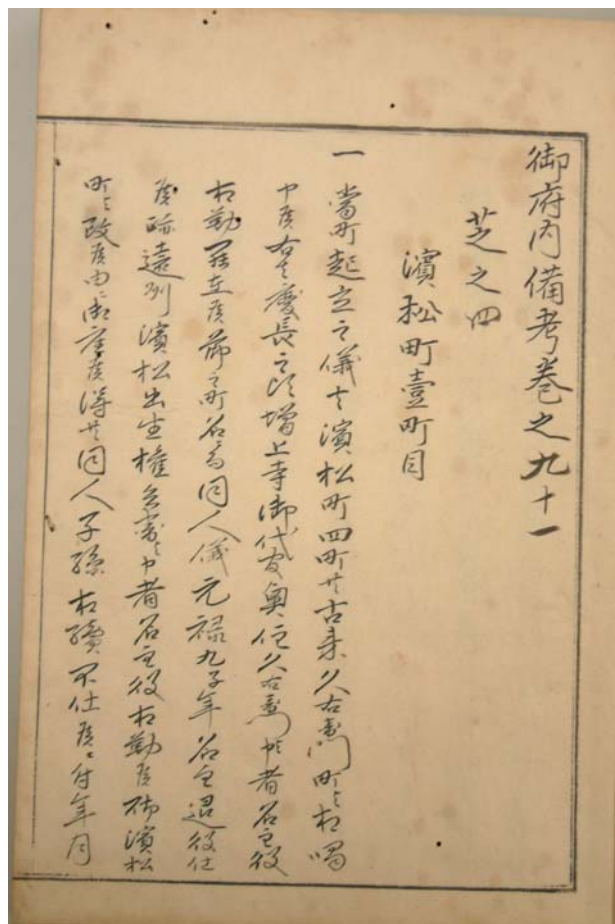
ここでは、東京都公文書館の最寄り駅、浜松町という町名のいわれを確かめてみましょう。浜松町一丁目に関する記述を、現代文に意識していきます。

浜松町老丁目

当町起立の儀は浜松町1丁目から4丁目に至る四町とも、古来は久右衛門町と唱えていました。

これは慶長（1596-1614）の頃、増上寺代官の奥住久右衛門という者が名主役を兼任で勤めていた時の町名で、同人が元禄9年（1696）に名主役を退いた後、遠江国浜松生まれの権兵衛という者が名主役を勤めた際、浜松町と改めたということです。

この「御府内備考」の記述によれば、浜松町は江戸時代初期以来名主の名をとって久右衛門町と称していました。しかし元禄9年にこの名主が退き、浜松出身の権兵衛という人が名主となった時代に、その出身地にちなんで浜松町と改めたということになります。名主久右衛門にちなんで久右衛門町だったのですから、のちの名主権兵衛にちなんで権兵衛町になっていてもおかしくはなかったのですが、なぜかわざわざ出生地浜松の地名を取ったこととなります。その理由は記されていませんが今となっては江戸の人々の命名のセンスに



御府内備考卷之九十一

感謝しなくてはならないでしょう。

「レインボーブリッジ・お台場の夜景を楽しみながら、最高のイタリアンに舌鼓」といったお店も、「権兵衛町駅から徒歩7分」では雰囲気がでませんからね。

大ベストセラー 江戸砂子

民間で流布していた地誌の内、大ベストセラーとなっていたのが菊岡沾涼著「江戸砂子」、別名「江戸砂子温故名跡誌」です。享保17年（1732）に出版されたこの6冊からなる地図入りガイドブックは、町名・橋・坂をはじめ、神社仏閣の沿革、名所・古跡の由緒などに考証を加えており、たとえば浅草・下谷方面なら第二巻、深川・本所なら第六巻といった具合に、懐中して歩けるハンディー版でしたから、たいへんな勢いで流布しました。そこで享保20年には版を改めて「続江戸砂子」（全5冊）が出版されています。さらに、初版から40年後の安永元年（1772）には、丹治庶智・牧冬渉の校訂により「再校・江戸砂子」（全8冊）が刊行されました。これは享保17年以降の

東京都公文書館だより

地名や人名の変遷を改め、適宜修正を行い、新たに増補した部分には欄上に「補」と記して原文と区別したものです。この改訂版により「江戸砂子」は最大かつ最長のベストセラー・ガイドブックとなったのです。

ここでは三島町（現・芝大門一丁目）に関する享保17年本と、安永元年本の記述を紹介します。

○三島町 　むかし鍋島信濃守殿・大島出羽守殿・福島左衛門殿、三家のやしきありしゆへに此名あり。

（「江戸砂子」）

○三島町 　むかし鍋島・大島・福島の三家のやしきありし故と也。

補 前板の説誤れり。慶長まで鍋島信濃守殿中やしきあり、その所ハ今増上寺地内となる。久留島越後守殿・鍋島市之丞殿屋敷あり。これも寺内と町とになる。此三島なり。

（「再校江戸砂子」）

三島町の由来は苗字に「島」の字のついた三家の武家屋敷が所在していたことによります。このことは間違いないのですが、初版本の段階ではその人物比定に不十分なところがあったのを、再校にあたってより厳密に考証し、訂正を加えていることがわかります。



江戸砂子温故名跡志

「芝方角」「三田・高輪方角」の図

オリジナル・ガイドブックの作成を

本稿では、明治末年から江戸中期まで遡る形で江戸・東京の町名調べを行なってきました。

この中で採り上げてきた資料に加えて、当館所蔵の『江戸名所図会』に描かれた名所旧跡の図版などを加えれば、ご自分だけの「江戸・東京町歩きガイド」がお作りになれるでしょう。町名の由来を確かめながらの歴史散歩で東京の魅力を再発見されてはいかがでしょうか。

図書閲覧停止のお知らせ

東京都公文書館では、現在所蔵図書の整理作業を進めております。そのため、下記期間中は図書の閲覧利用ができません。

利用者の皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、あらかじめご了承ください。

なお、図書閲覧停止期間中でも、図書以外の公文書・資料・庁内刊行物及び以下の図書についてはご利用いただけます。

記

◇ 図書閲覧停止期間

平成19年1月15日から同年5月まで

◇ 停止期間中でも利用できる図書

- ・内田祥三氏所蔵資料
- ・関東大震災関係図書
- ・藤岡屋日記（復刻活字版）

◇ 問い合わせ先 整理閲覧係 電話03-5470-1334

当館のご利用方法

◇ 来館について

当館の閲覧や複写に予約の必要はありませんが、次のような場合は、事前にご連絡ください。

- ・専門的な調査や、古い資料についてのご相談
- ・大量に資料を利用したい場合
- ・撮影したい場合

◇ 入館の注意点

当館1階入口で入館受付を済ませます。バッグ等お荷物をお持ちの方は、ロッカー（無料）に、筆記用具以外の持ち物を入れてください。

※鍵の紛失にご注意ください。

◇ 閲覧方法

窓口担当職員に、お調べになりたいものをお話してください。お調べの内容に沿うような目録やパソコンによる検索で、閲覧したいものを特定し、当館にそなえてあります「閲覧票」にご記入・ご提出ください。職員が書庫からお出します。

また、資料でマイクロフィルム化されているものは、原本保護のためマイクロフィルム閲覧室で閲覧をお願いします。

◇ 複写について

複写を希望される方は、当館に備えてあります「複写申請票」にご記入・ご提出ください。電子式複写は、一人又はグループで1日20枚までです。ただし、マイクロフィルムからの複写については枚数制限がありません。いずれも1枚20円で複写できます。※小銭をご用意ください。

◇ 閲覧・複写できる資料

当館の資料は原則としてご利用できますが、次のものは除きます。

- ①作成又は取得をして30年を経過していない公文書
- ②「東京都公文書館における公文書等の利用に関する取扱規程」第2条第2項又は第3項により一般の利用が制限されている次の公文書等
 - ・個人情報等が記録されているもの
 - ・利用によって破損や汚損を生じるおそれがあるもの
 - ・現に館において使用しているもの（目録作成など保存及び利用の開始のため館において使用しているものを含む。）
 - ・一般の利用に供しないことを条件として寄贈された資料

利用案内・交通案内

【利用案内】

- ①開館日時
 - ・月曜日から金曜日まで（9時～17時）
- ②休館日
 - ・土曜日、日曜日、国民の祝日及び振替休日
 - ・年末年始（12月28日～1月4日）
 - ・臨時の休館日として公示した日
- ③閲覧停止日
 - ・奇数月の第3水曜日（祝日の場合は翌日）
- ④駐車場
 - ・身障者専用駐車場をご用意しております。

利用される場合には、事前にご連絡ください。

なお、一般の方は利用できません。

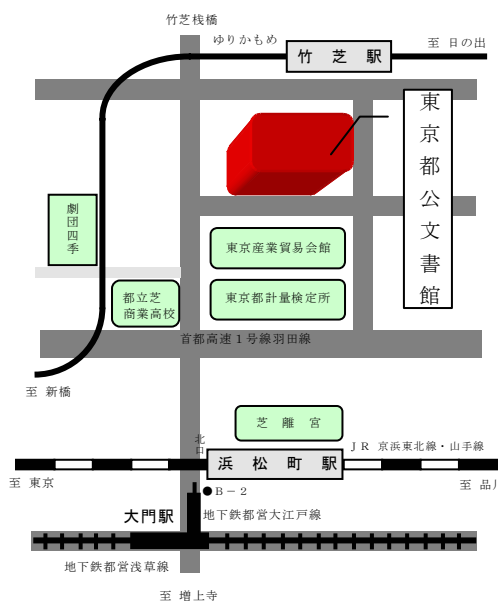
【所在地】 〒105-0022
東京都港区海岸1-13-17

【TEL】 03-5470-1333

【FAX】 03-3432-0458

【ホームページ】 <http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives>

【案内図・交通機関】



- ① JR「浜松町」駅北口（新橋方面）下車（徒歩7分）
- ② 地下鉄都営大江戸線 浅草線「大門」駅(B-2) 下車（徒歩9分）
- ③ 東京臨海新交通（ゆりかもめ）「竹芝」駅下車（徒歩2分）
- ④ 都営バス「竹芝棧橋入口」下車（徒歩0分）
[浜95 東京タワー⇒品川車庫]
- ⑤ 都営バス「竹芝棧橋」下車（徒歩2分）[虹01 浜松町⇄国際展示場駅]



石油系溶剤を含まないインキを使用しています。